

あえて外れる勇氣

世界的な映画監督スティーブンスピルバーグは、若い頃、映画学校への入学を何度も断られました。その理由は評価基準に合わなかったからです。

それでも彼は、「型に合わせるより、自分の衝動を信じろ」と背中を押してくれた友人の言葉を胸に、独学で映像を撮り続けました。

周囲からは無謀に見える挑戦でしたが、彼は「今は思い切り道を踏み外せ」と受け止めていました。もし失敗しても、そこから修正すればいい。最初から正解をなぞるより、遠回りの中で自分の表現を磨くことを選んだのです。

私たちはつい、間違わないように、評価を下げないようにと身構えてしまいます。しかし、その慎重さが「自分らしさ」を押し込めてしまうこともあります。

能力が足りないのではなく、出し切る前に止めている人は少なくありません。

見守ってくれる存在を信じ、今いる「出発点」を恐れず踏み出してみる。大きく揺れた経験こそが、後に確かな軸になります。

今日の言葉：恐れず自分を解き放て

成長の途中では、最初から整った答えを求めすぎないことが大切です。挑戦には失敗がつきものですが、それは終わりではなく調整の材料になります。

安全な範囲にとどまり続けると、力は温存されたまま表に出ません。

本来の力を発揮できていない人の多くは、能力が足りないのではなく、評価や視線を気にして一步を踏み出せていないだけです。少しはみ出す経験を重ねることで、自分の得意や限界が見えてきます。

また、周囲に支えてくれる人がいるという前提は、大きな安心感を生みます。うまくいかなかったときに修正できる環境があれば、人は思い切った行動を選べます。

自分を小さくまとめるより、試し、揺れ、学ぶこと。その積み重ねが、結果的に自分だけの道を形づくっていきます。



【今回の学び】⇒失敗は能力不足の証明ではなく、方向修正の材料である！

あえて外れる勇氣

世界的な映画監督スティーブンス・ピルバーグは、若い頃、映画学校への入学を何度も断られました。その理由は評価基準に合わなかったからです。

それでも彼は、「型に合わせるより、自分の衝動を信じろ」と背中を押してくれた友人の言葉を胸に、独学で映像を撮り続けました。

周囲からは無謀に見える挑戦でしたが、彼は「今は思い切り道を踏み外せ」と受け止めていました。もし失敗しても、そこから修正すればいい。最初から正解をなぞるより、遠回りの中で自分の表現を磨くことを選んだのです。私たちはつい、間違わないように、評価を下げないようにと身構えてしまいます。しかし、その慎重さが「自分らしさ」を押し込めてしまうこともあります。

能力が足りないのではなく、出し切る前に止めている人は少なくありません。

見守ってくれる存在を信じ、今いる「出発点」を恐れず踏み出してみる。大きく揺れた経験こそが、後に確かな軸になります。

今日の言葉：恐れず自分を解き放て

問一（語句） 本文中の「衝動」とはどのような意味か。最も適切なものを選びなさい。

- ア 他人に合わせる気持ち
- イ 心の奥から強くわき起こる思い
- ウ 計算された行動
- エ 失敗を恐れる気持ち

★問二（内容理解） スティーブンス・ピルバーグが映画学校に合格でなかった理由として本文に書かれていることは何か。

- ★問三（内容理解） 筆者が「遠回りの中で自分の表現を磨く」と述べている理由として最も適切なものを選びなさい。
 - ア 失敗しない方法だから
 - イ 評価が上がりやすいから
 - ウ 自分らしさを深められるから
 - エ 周囲に認められるから

★問四（表現理解） 「能力が足りないのではなく、出し切る前に止めている人は少なくありません」とあるが、これはどのようなことを述べているか。

★問五（記述） 「恐れず自分を解き放て」とはどういう意味か。本文を踏まえて説明しなさい。（四十字程度）

模範解答・解説

★問一 模範解答 イ

○解説④ 「衝動」は、理屈よりも先に心の奥から強くわき起こる思いを指す。本文では、自分の内面の声を信じる姿勢を表している。

★問二 模範解答

評価基準に合わなかったから。

○解説④ 本文には「その理由は評価基準に合わなかったのです」と明記されている。能力不足とは断定していない点が重要である。

★問三 模範解答 ウ

○解説④ 最初から正解をなぞるより、試行錯誤の中でこそ自分の表現を磨けると述べられている。目的は「自分らしさ」の確立である。

★問四 模範解答

自分には力がないと思いつているが、実際は挑戦せずに力を発揮していない人が多いということ。

○解説④ 能力不足ではなく、評価を恐れて挑戦を控えている状態を指す。心理的なブレーキが可能性を制限しているという指摘である。

★問五(記述) 模範解答(例)

失敗や評価を恐れず、自分の思いや個性を思い切つて表現すること。

○解説④ 本文全体は、型に合わせるよりも自分の衝動を信じる姿勢を勧めている。恐れを越えて行動することの重要性をまとめる。

成長の途中では、最初から整った答えを求めすぎないことが大切です。挑戦には失敗がつきものですが、それは終わりではなく調整の材料になります。

安全な範囲にとどまり続けると、力は温存されたまま表に出ません。

本来の力を発揮できていない人の多くは、能力が足りないのではなく、評価や視線を気にして一歩を踏み出せていないだけです。少しはみ出す経験を重ねることで、自分の得意や限界が見えてきます。

また、周囲に支えてくれる人がいるという前提は、大きな安心感を生みます。うまくいかなかったときに修正できる環境があれば、人は思い切った行動を選べます。自分を小さくまとめるより、試し、揺れ、学ぶこと。その積み重ねが、結果的に自分だけの道を形づくっていきます。



【今回の学び】⇒失敗は能力不足の証明ではなく、方向修正の材料である！